

武蔵野

へ武蔵野の 果てはありけり 富士筑波 その紫の
ひともとに からむ尾花や萩桔梗 浅き夢見し

業平が 昔語りを今に追ふ へだての帯の隅田川

へ山に湧く水しろがねの 流れに沿うて行く雲や

棹さす舟のなつかしく 西も東も錦しく 花野の中

の花のかげ 誰が手に染めん舞衣 武蔵野乙女姉

妹 へ暮れ染めて 野の影淡し三日のつき 月は墨

絵の秋草に すだく虫の音遠砧 へ多摩の河原に

咲く花を 手折りてささむ黒髪は 誰に見しよとの

思いかな へ秋の稲妻一文字 広野をわたる人影

は 人恋う人の絵姿か 創るとき無き人の世の 夢

の通い路一筋に 夜ごと色増す蔦かづら

へ松葉かんざし紅元結 軒打つ夜半の時雨かや

野分けの後のきりぎりす